

酒米「山田錦」の穂肥診断アプリの開発

【背景・目的・成果】

穂肥の適正な施用は、充実した高品質な粳を作り、収量を向上させるために、非常に重要です。しかし、穂肥量を正確に決めるには、ほ場での生育診断により生育量を把握する必要がありますが、調査に時間と労力がかかるのが課題でした。

そこで、酒米「山田錦」において穂肥診断の省力化と精度向上を図るため、スマートフォンで撮影した画像から生育量を推定し、最適な穂肥量を診断するアプリ「Rice Cam¹⁾山田錦」を京都大学と共同で開発しました。

¹⁾「Rice Cam」は、京都府がコシヒカリ向けに開発した穂肥診断アプリ(京都府から研究成果有体物提供)

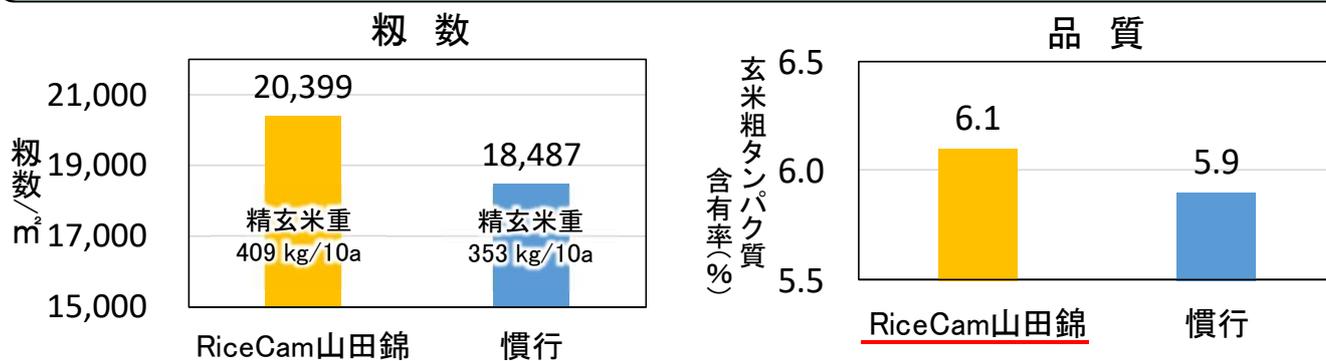
1 診断方法



2 穂肥診断アプリの効果(2020年 酒米試験地)

穂肥診断に基づいて、慣行栽培(栽培暦)の約2倍量を追肥した結果、粳数・品質の目標値はほぼ達成し、慣行栽培と比べ粳数は向上、品質は同程度となりました。

【目標値: 粳数 約21,500/m²、玄米粗タンパク質含有率 7%未満】



【技術の活用】

- ・アプリはAndroidのみに対応しており、「山田錦」の穂肥診断専用です。
- ・今後、多様な撮影条件に対応できるように改良を図るとともに、産地への技術移転(実践活用)をすすめます。

